



(公社)神奈川労務安全衛生協会

小田原支部

小田原市本町2-3-24

TEL 0465-24-1753

発行責任者 支部長 小池清彦

編集 広報部会



小田原城

小田原ガス(株) 細谷 誠治氏 撮影

第76回 全国労働衛生週間スローガン

『ワーク・ライフ・バランスに意識を向けて
ストレスチェックで健康職場』

令和 7 年度

全国労働衛生週間を迎えて

小田原労働基準監督署 署 長 ほん ま きみ のり
本 間 公 紀

日頃から、会員事業場の皆様方におかれましては、当署の行政運営に御理解・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、全国労働衛生週間は、今年で76回目を迎えることになりました。

神奈川県内の職業性疾病の発生件数は令和6年は新型コロナウイルス感染症によるものを除くと841件と高止まりとなっており、死亡災害が3件発生しております。

過労死等については、令和6年度の脳・心臓疾患の労災認定件数は14件と高い水準となっており、精神障害の認定件数は103件と

大幅に増加しています。ハラスメント防止対策やメンタルヘルス対策の実施が重要です。

また、令和6年の神奈川県内の一般健康診断結果における有所見率は高齢化の進行もあり60.7%と上昇を続けています。

このような背景を踏まえ、今年度は、「ワーク・ライフ・バランスに意識を向けて ストレスチェックで健康職場」をスローガンに全国労働衛生週間が展開されます。これを契機に、労働衛生意識の高揚を図るとともに、自主的な労働衛生管理活動の一層の促進をお願いいたします。

全国労働衛生週間

🌸 小田原地区推進大会に参加して 🌸

令和7年9月5日に青色会館にて、「第76回 全国労働衛生週間 小田原地区推進大会」が開催され、スローガン「ワーク・ライフ・バランスに意識を向けて ストレスチェックで健康職場」です。

当日、会場には悪天候の中、約80名の方々が来場し、且つWEB配信を同時に行うハイブリッド方式で行われました。

来賓の方々には労働衛生に関する最新情報や取り組みをお話しして頂き、神奈川県労働局長表彰奨励賞受賞の小田原ガス株式会社には活動内容の紹介、小田原労働基準監督署安全衛生課長の磯崎様から労働災害発生状況、衛生週間の実施内容のご説明、若年性認知症の支援コーディネーターの田中様より若年性認知症の方への就労中での配慮・制度についてのお話を頂きました。



様々な立場・角

度からのお話で、大変に参考になりました。

また、特別講演では、中央労働災害防止協会健康快適推進部参事の熊本様より「コミュニケーション力の向上～伝える力で職場の活性化！～」と題し、上司と部下の関係の重要性から、信頼・尊重できるように、日頃から、ちょっとした会話の工夫によるコミュニケーションのあり方、さらに人間関係を良くするアサーション法の実践をご教授して頂きました。

これからも皆さんが快適に、気持ち良く、楽しく、健康に働けるように実践していきたいと思います。ありがとうございました。

(ライオン(株)小田原工場 石川和広)

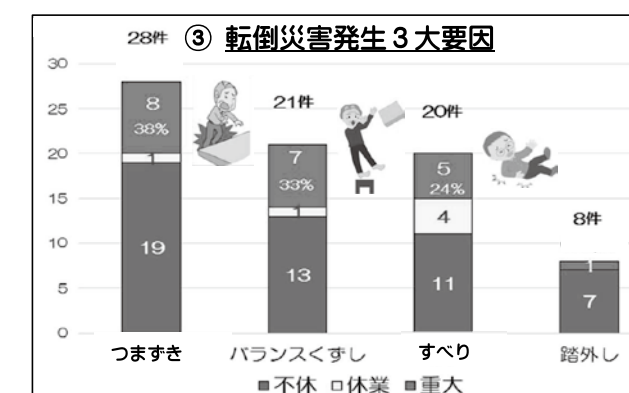
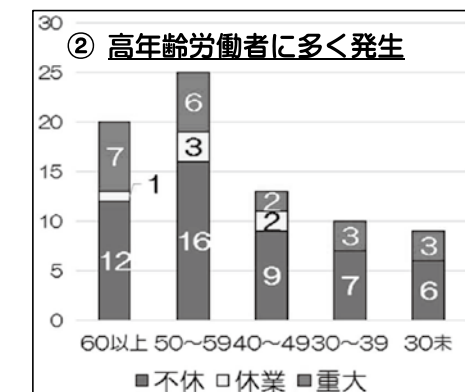
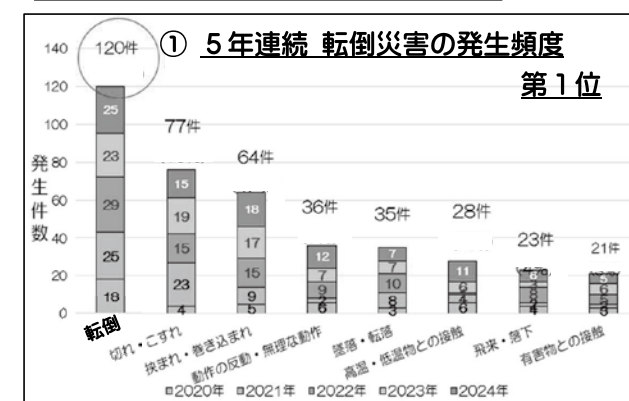
令和7年度 全国労働衛生週間
小田原地区推進大会
YouTube QRコード➡

—— 特 集 ——
小田原支部で取り組む転倒災害防止活動

その1 小田原支部 安全部会による、転倒災害実態調査に基づく対策の提案

14次防の重点課題である転倒災害防止について、安全部会では支部役員事業場38社へのアンケート調査を実施。その分析結果から、転倒防止策について以下の提案をまとめました。

1. アンケート結果 ①、②、③



アンケートからの考察

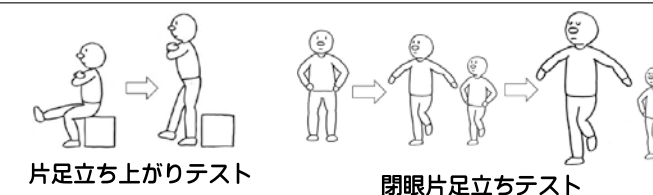
☆ 転倒災害は
高齢化に伴う体力低下が起因する
行動災害が多い



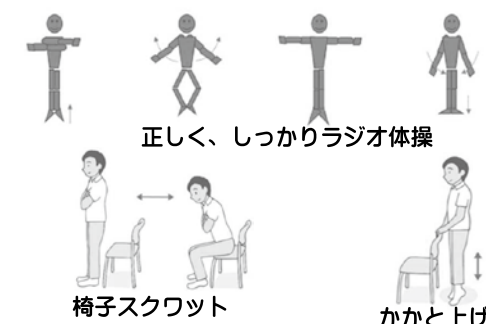
☆ 転倒災害防止策は
自身の体力の現状把握（自覚）
& 予防運動の導入（実践）が必要

2. 対策提案 ④、⑤

④体力測定等による自己体力を自覚



⑤ラジオ体操+転倒防止運動を実践



まとめ

☆ 転倒災害防止対策は以下2点が不可欠

- ・環境改善：段差や明るさ等のハード改善
- ・行動変容：体力把握と生活習慣改善

☆ 行動変容とは「自覚」と「運動習慣」

- ・自分の身は自分で守る意識と行動
- ・簡単なことから習慣化し、継続が重要！

その2 小田原支部会員事業場における転倒災害防止活動



三菱ケミカルグループ体操と安全安心体力テスト®で
従業員の転倒災害ゼロへ！！

事業者名：三菱ケミカルグループ株式会社
業界・業種：製造業
従業員規模：66,358名（連結）（2024年10月現在）
地域：全国/海外

導入当時の背景と位置づけ

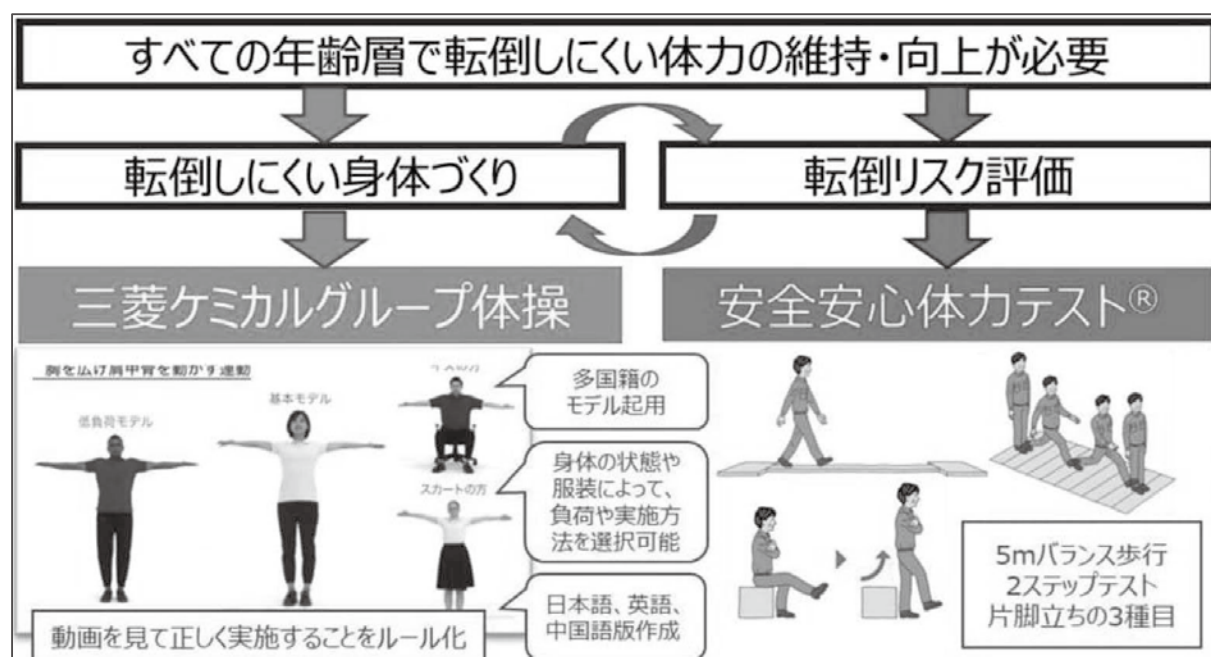
厚生労働省の報告によると、労働災害の種類別分類（休業4日以上）では、「業務中の転倒」が最も多くなっており、2005年に最頻出災害になって以降、増加傾向にありました。当社においても、2012年から5年間に発生した労災のうち、転倒労災は26%（発生頻度第2位）を占め、安全対策の中でも優先順位の高い位置づけでした。具体的な対策として、従来から行ってきた意識向上や設備等への対応だけでなく、これまで未介入であった人的要因に着目し、「転倒しにくい身体づくり」が必要と考え施策を導入するに至りました。2017年より「人の運動機能」に着目した対策を国内外を問わずグローバルで推進し、転倒災害ゼロを目指しています。

三菱ケミカルグループ体操とは

転倒につながりやすい不良姿勢の改善や、階段・歩行などの移動、またバランスを崩した際など体重を支えるために必要な筋力の低下を防止するため、ストレッチや筋力を高めるレジスタンス運動、関節の柔軟性を高める運動を組み合わせたオリジナルの体操です。現在、MCGグループでは、「人的要因に着目した転倒労災防止対策」を健康経営の施策と位置づけ、「三菱ケミカルグループ体操」と「安全安心体力テスト®」の2本柱で推進を開始しました。

取り組んだプロジェクト内容

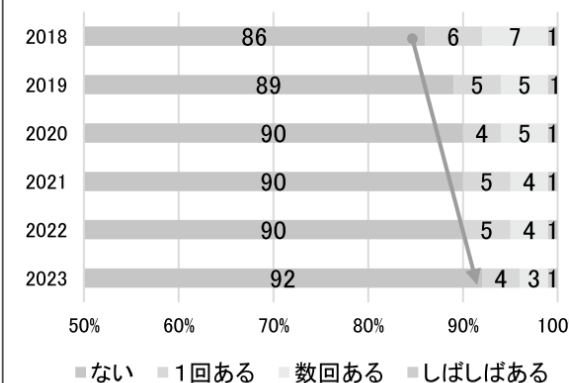
当社オリジナルの「三菱ケミカルグループ体操」を毎日就業時間内に動画を見て実施し、「転倒しにくい身体づくり」を進め「安全安心体力テスト®」で「転倒リスク」を客観的に評価し、両輪での取り組みを推進しています。体操の解説動画、教育資料の作成と活用、e-learning等を通して、従業員の知識とモチベーションの向上を図っています。また、製造現場のみならずオフィス環境での展開も行っています。



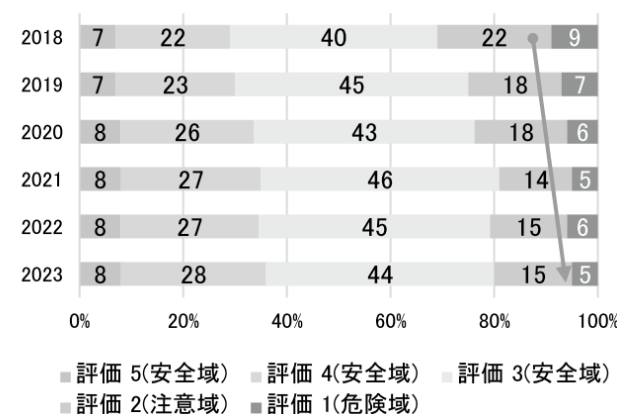
やってみての効果

取組開始以降、過去1年間の転倒経験者が年々減少し、転倒ハイリスク者が減少しました。

過去一年間の転倒経験者の割合



2ステップテストスコア別人数割合



今後の目標・展望

転倒災害は世界共通・職種を問わない課題であり、国内外で働き方に関わらず取り組みを継続していきます。

三菱ケミカルハイテクニカ（株）（小田原地区）の取り組み

三菱ケミカルグループ（株）のグループ会社である三菱ケミカルハイテクニカ（株）（小田原地区）も、職場の健康を従業員と会社が一体となって取り組む方針の元、2019年4月1日から実践しています。導入初期は、推進リーダー・サブリーダーを任命し、施策の浸透を図るとともに、効果を高めるため正しい動きの伝達に注力しました。現在も毎日必ず動画を見ながら、正しい動きを意識して行っています。

三菱ケミカルグループ体操を実践して

この体操を実践して6年目となりました。振り返ってみると、キーワード的には”意識づけ”、”継続”、”効果の確認”であったと考えます。導入初期から、会社がグループ一丸で浸透を図ってきました。三菱ケミカルグループ体操の内容には、筋力や体幹にも効果がある動きが盛り込まれており、推進リーダー・サブリーダーの指導では、動画だけではよくわからない手足の可動範囲、力の入れ方、意識の仕方等を正しい方法になるように教えてもらいました。体操は毎日必ず動画を上映し、それを見ながら行っています。続けていると時折気づくことがあり、正しい動きを確認することの大切さを感じています。

そして、体操の効果を確認する安全安心体力テストは年1回受験しています。”やってみての効果”のように数値的に効果が表れていますが、職場のみんなの身体の動きが軽やかに変わってきたように感じています。（広報部会 三菱ケミカルハイテクニカ株 香川 和彦）

転倒災害防止活動特集まとめ

14次防の重点課題である転倒災害防止について、小田原支部安全部会が提案する対策内容とその対策内容をすでに実践している「三菱ケミカルハイテクニカ」の活動を紹介しました。

今後、高年齢労働者が増加する中、個人の体力維持・向上に向けた行動変容を事業場全体の取り組みとしてサポートしていくかが改善のポイントになりそうです。（広報部会）

小田原労働基準監督署からのお知らせ

労働安全衛生関係法令改正 ストレスチェックが義務化されます

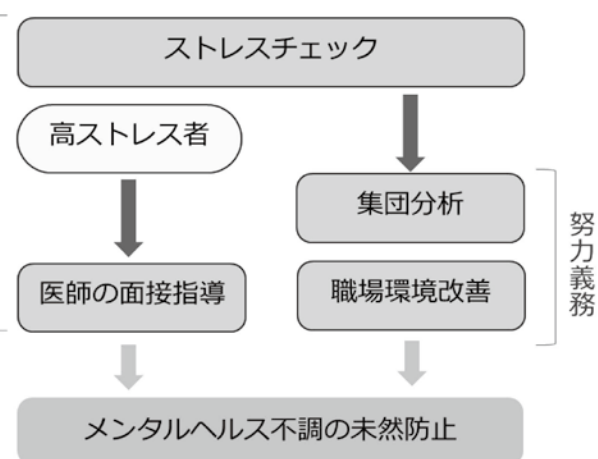
メンタルヘルス対策の一次予防に位置付けられるストレスチェックについて、現在努力義務となっている常用労働者数50人未満の事業場においても、今後、ストレスチェックや高ストレス者への面接指導の実施が義務付けられることとなりました。

ストレスチェック対象事業場の拡大により、すべての労働者が自分のストレスの状態を把握し、メンタルヘルス不調を未然に防止することを目的としております。

現在は、施行までの準備期間となっておりますが、早めの取り組みをお願いします。



【ストレスチェック制度の流れ】



神奈川県最低賃金の改定について

令和7年10月4日より、神奈川県最低賃金は、時間額1,225円(63円引き上げ)となります。神奈川県内の事業場で働くすべての労働者とその使用者に適用されます。

最低賃金の詳細については、神奈川県労働局賃金室のホームページをご覧ください。神奈川県労働局賃金室、もしくは管轄の労働基準監督署までお問い合わせください。

神奈川県内の事業場で働くすべての労働者とその使用者に適用されます



厚生労働省労働基準局
広報キャラクター たしかめたん

賃金引き上げの支援策もぜひご検討ください

神奈川県最低賃金
令和7年
10月4日から
時間額 **1,225** 円

業務改善助成金
業務改善助成金コールセンター
0120(366)440

キャリアアップ助成金
神奈川県助成金センター
045(650)2859

～令和7年度～ 神奈川県労働局長 奨励賞 受賞

この度の神奈川県労働局長 奨励賞の受賞に際し、弊社の安全衛生に対する取り組みを表彰いただき、誠に光栄に存じます。また、ご推薦いただきました小田原労働基準監督署の皆様には感謝申し上げます。

今回の受賞を機に、改めて安全衛生に関する意識を高め、従業員一丸となって更に安全な職場を築けるよう、活動を進化させていきたいと思っております。(小田原ガス株式会社 細谷誠治)



全国労働衛生週間
小田原地区推進大会で
受賞報告する細谷さん

夏季講座

第1分科会(テーマ:化学物質管理の進め方)に参加して

今回は、パネルディスカッション形式を取り、労働衛生技術専門家会議メンバーより具体的な取組の紹介と質疑応答を実施、その後、グループ討議となったため、各グループで活発な意見交換が実施されていました。例年参加されている方からは「年々具体的な議論が行われ勉強になる」との声も多くありました。



(衛生部会 紀伊産業(株)鳴宮工場 松崎 勝彦)

第2分科会(テーマ:知っておきたい職場でできる腰痛対策)に参加して

腰痛予防は作業管理だけではなく健康管理と教育が重要であることや、セルフケアとして「これだけ体操」が効果的であるなど多くの学びを得られました。特に、コルセット(腰痛ベルト)には腰痛に対する直接的な予防効果はないという事実が一番驚きました。

(安全部会 三菱ガス化学(株)山北工場 海老原 孝)



新規加入会員事業場紹介

- ☆事業場名 株式会社古川
- ☆所在地 小田原市寿町1-2-32
- ☆代表者名 古川 剛士
- ☆設立 1948年8月25日
- ☆従業員数 82名
- ☆事業内容

液化石油ガス、オートガス、重油、灯油販売
ガス機器及び住宅設備機器等の販売施工
住宅リフォーム全般
ミネラルウォーター(アクアクララ)製造・販売
太陽光発電システム、蓄電池等の施工販売
メガソーラー発電事業、電力会社代理店



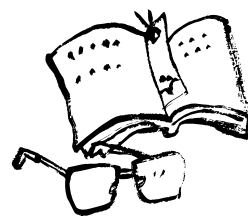
事務局だより

事務局長 鎌田 光郎

今回、折り返し点を迎えた14次防の重点課題に取り組む「部会活動」や「事業場活動」を紹介しました。いかに身近な生活習慣から、行動変容につなげていくか、各種教育講習を企画し支援したいと思います。

〈10月下旬～12月開催講習会〉

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| * フルハーネス型墜落制止用器具特別教育 | * 安全衛生推進者養成講習会 |
| ・ 10 月 23 日 (木) 青色会館 | ・ 12 月 2 日 (火)、3 日 (水) 青色会館 |
| * 健康保持増進講習会(リアル & ライブ配信) | * テールゲートリフター特別教育 |
| ・ 10 月 28 日 (火) 青色会館 | ・ 12 月 10 日 (水) 小田原ガス |
| * 1 トン未満フォークリフトの運転の業務に係る特別教育 | * 保護具着用管理責任者研修 |
| ・ 10 月 30 日 (木) 青色会館 | ・ 12 月 18 日 (木) 青色会館 |
| * 化学物質管理者選任のための研修 | * クレーン特別教育 |
| ・ 11 月 5 日 (水) 青色会館 | ・ 12 月 23 日 (火) 青色会館 |
| * KYT 基礎実践研修会 | * フルハーネス型墜落制止用器具特別教育 |
| ・ 11 月 7 日 (金) 青色会館 | ・ 12 月 25 日 (木) 青色会館 |
| * 危険体感講習会 | |
| ・ 11 月 11 日 (火) 富士フィルム研修センター | |
| * リスクアセスメント研修会 | |
| ・ 11 月 13 日 (木) 青色会館 | |
| * 職長教育 | |
| ・ 11 月 20 日 (木)、21 日 (金) 青色会館 | |



散 歩 道

私の実家では、祖父の代から稲作を行っている。私が幼い頃から、田植えや稲刈りの時期は毎週末、家族総出で作業をしている。大変な作業の一つとして水田に生える雑草「ヒエ」の除草作業がある。ヒエは放置すると米の品質が低下し、収穫量も減ってしまう。除草作業は長時間行う為、腰痛対策も欠かせない。猛暑の為、空調服を着て作業をする人も見かける。9月下旬に稲刈りを行うが、台風の影響で稲が倒れてしまうことがある。その時は、稲刈りの作業時間が数倍かかる。農機具を使用する前には、操作を誤らないよ

う、KY（危険予知）は欠かさない。近年は、高温障害、田んぼの渇水によりお米の良品率が悪化し、収穫量減となり悩みは尽きない。ただ、周りの方々から「お米作り大変だけど頑張ってるね！」と声を掛けていただき、それが励みになっている。田んぼで自家製のお米で作ったおにぎりを家族で食べるのが楽しみ。自己満足かもしれないが、その美味しさは格別だ。



(広報部会 細谷誠治)